

高遊原開発つく

魚住
議員

魚住議員 新空港建設と高遊原の農業開発を問う。空港建設よりも農業開発の方が遅れているのではないか。また、昨年の六月県が



魚住議員

発表した開発構想に比べて、現計画は規模が小さくなっているのではないか。開発事業費の地元負担はどうなるのか。

寺本知事 地元民の不安を魚住議員は代弁しているものと思うが、農業開発は異例の早さで進めている。深田メムムの調査は、地元民の了解を取りつけるのに手間とつてことしの二月になったが、それでも農林省の本年度事業に採択された。通常この程度の事業は実施設計に二年かかるが、県費を支出して一年で完了する。超特急だ。

開発構想が縮小されたのはご説の通りだが、構想の本筋は変わらない。地元負担は、大切畑のため池改修や深田メムムの建設など開発の柱になる事業と農地保全事業ではあまり受益者に負担はかけられぬ。しかし、ホ場整備の事業や畑かん事業など、すぐ所得にはね返る事業については、ある程度負担してもらってもいいのではなからうか。

魚住議員 水俣病問題で三点を要請する。患者や家族の救済は国

だけに任せず、県も最大限の努力をしてほしい。一方、チツソが地元水俣市の発展に寄与した面を考え、角をためて牛を殺すようなことのないよう配慮してもらいたい。さらに、県独自で工場廃液に対する監視組織を強化すべきである。

寺本知事 こもつともな要請で患者救済には県としても手を尽くしたい。また、チツソが再建五カ年計画を変更するとの話も出ているが、再建計画と市民の幸福が両立するよう努力したい。工場廃液については監督、監視を強化し、再発を防ぎたい。

魚住議員 一〇・八闘争にどう対処するか。

中西教育委員長 校長や市町村教委などを通じて教職員使命感の確立に努めているが、一〇・八闘争が実施されたら、姿勢を正して対処する。

魚住議員 菊池・阿蘇道路の建設見通しはどうか。

寺本知事 九州横断道路と菊池・阿蘇道路とのフル計算は、保利建設大臣は行政措置でやれるのではないかとの見解だったが、事務当局では法改正が必要だとしている。そこで有料道路を持っている全国の県と市町村で法改正を働きかけている段階である。しかし、法改正までじっとしているわけではなく、コースの正確な図面を作って将来の建設に備える。